

視聴覚教育

NO. 356

発行日

21.10.15

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

視聴覚用語
『Wi-Fi(ワイファイ)』
 無線機器間の相互接続性等について、Wi-Fi Alliance によって認定された機器であることを示す名称、ブランド名。最近では、パソコン機器以外にも、携帯ゲーム機や携帯電話、音楽プレイヤー、デジタルカメラ等の家電製品にも搭載されている。

自作ビデオ教材の活用を

現職研修委員会学習情報部長 江坂良夫

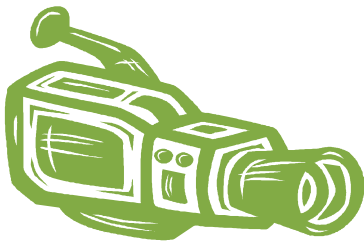
二十年前ぶりに学習情報部の一員として、活動を共にさせていただいています。当時は視聴覚部という名称でした。コンピュータ教育が始まり、各学校に教材制作を主として、パソコンが一台導入された時期でもありました。そこから、目覚ましい情報通信技術の進歩やICT活用の推進で、コンピュータ室や校内LANの整備、デジタルテレビの設置等、学習環境も大きく変化してきています。

こうした流れの中で、視聴覚部の自作班による組織的なビデオ教材作りが始まったのは、昭和五十二年からです。私自身が自作に携わったのは翌年からです。当時はカラーのハンディカメラが登場したばかりで、天候によってフィルムを変えたり、撮影の都度色調整をしたりと大変でした。これを怠ると、映像が編集時に使えなくなってしまうからです。またオーブリーダーのため、事前に使える映像の秒数を確認して、台本を作ったものでした。今では文字や図などはコンピュータを使えば簡単にできてしまいま

すが、当時は、すべて手書きで行っていました。より教材性を高めるために、昭和五十五年からは社会科部と、平成元年には理科部と、そして、平成五年には英語部と共同で作品作りを行うようになりました。平成十年に現在のような組織に改められ、毎年素晴らしい成果を収めています。

これは、三十年余りにわたる先輩から後輩への作品作りに対する考え方や技術が引き継がれ、岡崎の自作ビデオ教材作りの伝統となっているからです。作品作りは、先生方の熱意によって、精力的に行われています。

こうして作られた作品は、制作にあたった先生方の岡崎の子供たちのためという願いが込められています。各学校にも、作品が配布されています。授業で活用すること、制作に携わった先生方の苦勞が報われるとともに、作品作りの向上にも結びつくものと思っています。



Ⅱ 視聴覚教育あれこれ Ⅱ

● 第13回視聴覚教育総合全国大会
 第60回放送教育研究会全国大会

合同大会(愛知大会)のご案内

10月27日(火)・28日(水)に岡崎市民会館をメイン会場にして、全国大会が開催されます。岡崎市内では、27日に羽根小学校と甲山中学校、光ヶ丘女子高等学校において大型ディスプレイや教材提示装置などを効果的に使用した授業が公開されます。また、図書館交流プラザ(りぶら)では、岡崎市視聴覚ライブラリーの実践発表も行われます。

【羽根小学校】 研究主題

「伝え合い練り上げる授業」

「伝え合い練り上げる授業」
 「わくわくするメディアの利用を通して」
 情報機器などのメディアを取り入れることで、児童の興味関心、学習効果を高めることを目指しています。さらに、①基礎的基本的な知識や技能。②自信を持って自らの考えや思いを相手に伝え、相手の考えや思いを受け入れる力。③様々な考えや情報を活用し、自らの考えや思いを再構築する力。以上3つの力を児童に付けさせたいと考えています。

【甲山中学校】 研究主題

「思いやりあふれるコミュニケーションを創造する生徒の育成」

「思いやりあふれるコミュニケーションを創造する生徒の育成」
 ICTの効果的な活用により、小グループでの話し合いや、プレゼンテーションを行う時間を設定します。こうした授業を通して、お互いを尊重し合えるような「思いやりあふれる」学び合いを創造し、生きる力の育成を図る研究です。

実践報告Ⅱ

「岡崎を題材にした自作ビデオの活用」

矢作北中学校 河合 泰宏

二年生の社会科地理で、古都に見る伝統文化について学習する。教科書では、「宇和奈辺陵墓」「東大寺のお水取り」など、国際観光都市の京都や奈良の史跡や伝統的行事を取り上げている。伝統のうえに新しい開発を積み重ね、単に伝統を守るだけでなく絶えず工夫や改善をほどこし、開発に努める動きが学習内容に組み込まれている。

本単元の教材を生徒にとってより身近に、興味深いものにするために、地元岡崎の内容を扱っている自作ビデオ(本年度制作中)を活用した。今回活用したビデオは「伝統の技を守る ～三河仏壇の挑戦 アートマン・ジャパン～」である。このビデオは、ライフスタイルの変化から、この伝統技術を絶やすことなく継承するために活動している若手職人集団を取り上げた作品である。



行ったこと、見たことのある場所が映像にあり、生徒は興味深く視聴していた。視聴後には、職人の真剣なまなざしや後世への技術継承などがよく分かったという感想が多くあった。今後も、自作ビデオを活用し、子供たちの学習意欲の喚起や知識の定着を図りたい。

Ⅱレッツ・トライⅡ

デジカメの動画機能を使って

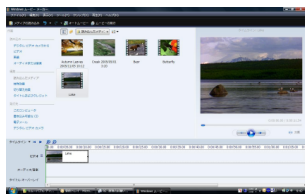
授業などで、本格的にビデオカメラで撮影し、編集して見せるのは手間だという場面は多い。その様々とき、デジカメの動画撮影機能が便利である。

体育の授業や部活動の指導の際、デジカメの動画撮影機能で子供たちを撮影して、即時に自分の動きを確認させることができる。デジカメ動画を見て、自分の動きを修正する子供たちを見ると、視聴覚機器の教育的効果の大きさを感ずる。

編集して自作ビデオを制作しようとするなら、デジカメ動画をムービーメーカー (Windows に付属) で簡単に編集することもできる。デジカメで撮影された動画を、ムービーメーカーに読み込み、画面上でマウスを使って並べるという簡単な操作で編集することができる。

操作方法が分かれば、それほど難しいソフトではない。子供たちでも編集することができる。私も、小学校2年生にこの方法で生活科のまとめをさせることがあった。子供たちは大喜びで編集し、作品を作り上げることができた。

デジカメは、学校に何台もある。子供たちに静止画を撮らせるだけでなく、動画を撮ってみさせるのも面白い。



(根石小学校 学習情報主任 山口 秀樹)

ライブラリーだより

●第8回全国子ども科学映像祭について

子供たちの科学への関心を喚起することを目的とし、カメラの目を通して科学の楽しさや素晴らしさを理解させ、「科学する心」を育てようという映像作品のコンクールです。応募作品から入賞作品を選び、表彰式で上映し、映像祭としていきます。

《応募要項》

◆作品のテーマ

・小学生部門

「みぢかな生きもののふしぎ」

小学生が、父母または祖父母など保護者や教師と協力して作る。

・中学生部門

「科学の不思議を見つめると」

個人またはグループで作る。

※作品は科学全般

※作品の上映時間は3分以上10分以内。

◆応募締切

・平成21年10月31日(当日消印有効)

◆制作上のきまりや応募上の注意など詳細は、日本視聴覚教育協会ホームページを参照してください。

<http://www.javea.or.jp/kodomoeizo/>

